

令和6年度第1回まんが王国・土佐推進協議会 総会概要

日 時：令和6年10月25日（金）13:30～15:30

場 所：高知共済会館（オンライン併用）

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員12名（うち2名は代理参加）、監事1名、  
オブザーバー1名（オンライン参加）

（1）副会長あいさつ

（2）議事

次の議案について事務局から説明があり、承認された。

第1号議案 令和5年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告

第2号議案 令和5年度収支決算報告

（3）報告事項

次の報告事項について、事務局から説明が行われた。

第1号報告 令和6年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

（4）協議事項

次の協議事項について、事務局から説明の後、意見交換が行われた。

第1号協議 まんが甲子園の今後について

（5）閉会 第2回総会は、令和7年2月に開催を予定。

第1号議案 令和5年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告

第2号議案 令和5年度収支決算報告

委員一同承認

第1号報告 令和6年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

事務局より説明

第1号協議 まんが甲子園の今後について

事務局より説明

1 情報発信の強化

【A委員】

- まんが教室の参加者をまんが甲子園に繋げたいが、小中学生はまんが甲子園を知らない。まんがクラブに、まんが甲子園の紹介動画を見ていただくと良い。
- まんが甲子園のキャラクターであるペンザキ・鎬の被り物をしたスーツ姿の人が犬を連れて学校を訪問する等、子供の興味を引く工夫が必要。
- まんが甲子園の練習試合をアーケードで行い、通行人に見ていただく。

(事務局) 教諭が集まる場やまんが教室でまんが甲子園の取組についても紹介しているが、次世代に届けられる手法がないか考えていきたい。

#### 【B委員】

- 小中学生向けの効果的な広報手段は、チラシの配布。家族が見て子供が楽しめる催し物があれば連れて行く。SNS は高校生以上に有効。
- 子供のお絵描きコーナーで、描いた絵が動くソフトやシステムを活用し、自宅ではできないことを提供することにより、会場に足を運んでいただくことができる。

#### 【C委員】

- 小中学生への周知は、教育委員会を通じてチラシを各家庭に届けられる。

#### 【D委員】

- 東京では小学生も SNS 投稿に慣れているため、チラシではなく、QR コード付きのポスターが主流。チラシだと QR コードを読み取るために持つ手間が生じるが、ポスターなら見ながら拡散できる。掲示場所としてはレストルームが良いと思われる。
- 高知で有名なユーチューバーを活用することも一案。
- 審査員が有名な漫画家だと選手との隔たりがあるので、高校生を審査員にしても良い。まんがを描く人だけでなく、今後、その人たちをバックアップするプロデューサー（描けなくても見る目がある人材）を育てるという意味でも、高校生は適任。
- よさこいは各地で開催されているため、高知発祥と知らない人もたくさんいる。県庁チームを作り、構成員はすべてキャラクターというのはいかがか。まんが甲子園で最優秀賞を取った作品からキャラクターを採用する。

#### 【E委員】

- 市町村はいろいろなイベントを開催しており、多くの子供が参加する。そこで、まんが甲子園を発信することは有効。

### 【F 委員】

○香美市等では来年度、『あんぱん』に関連した博覧会に多くの県民が参加する。これとうまく連携することにより、まんが甲子園を発信できる。

## 2 人材育成

### 【G 委員】

○アニメプロジェクトとの連携に取り組みたい理由は何か。まんがの土台の上にアニメやゲームが成り立っているため、まんが甲子園でなぜアニメを取り上げるのかという意見も出てくると思われる。また、まんが甲子園は、内向的な子供たちにスポットが当たる場所でもあるが、アニメとの連携は、人材育成というよりは、人材確保、つまり就職に繋がりたいという印象を受ける。

(事務局) まんが甲子園が教育的な取組である一方、産業部局でアニメの取組を推進しているので、県の取組として連携して相乗効果を上げるべきとの意見がある。

### 【A 委員】

○ストーリー漫画家は目指せないが、アニメ制作の一部分なら自分の才能を活かせる人々が、活躍する場所があると知ることは大事。予選落ちする画力の高い生徒を救う取組も、アニメ事業との連携で可能となる。

### 【D 委員】

○まんがとアニメが交わることはない。アニメーターのほうが力が強いので、原作者は口を挟めずに挫折する。アニメーターと漫画家は相反する。

○まんが甲子園においては、1枚まんがを原点としつつ、表現方法は、イラスト、4コマ等、いろいろあって当然。こんなの漫画ではないと言う審査員がいるかもしれないが、高校生（Z世代）が良いと言えば、それは絶対に良いものである。まんが甲子園を進化させていくためには、いろいろ仕組みを考えたほうが良い。

【B委員】

○部門を分けると、2日間、現地に来て競技する必要がなくなる。オンラインで作品を募集する個人レベルのことになる。制約がある限られた種目の中で、部活の延長上としてでないと言えないと運営できない。

【G委員】

○事務局から議題を投げかけられるということは、応募数や来場者数の増加、認知度の向上等、様々なことが課題となっていて、具体的な結果を出さなければならないということ。皆様から意見をいただいて前に進んでいきたい。

(事務局) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で現地開催できなかった時期があり、応募数が頭打ちとなった。子供の数の減少等、社会情勢も含め状況が変わってきている。新たな感性を入れて、より良いものにしていきたい。

### 3 地域活性化

【H委員】

○まんが甲子園は専門的なものなので、地域に定着していない。まんがやアニメといった専門的な切り口と、高知県の地域経済という切り口から、この過渡期を力を合わせて乗り越えていけたらと思う。

【I委員】

○香美市のアンパンマンミュージアムは、関東のアンパンマンミュージアムと比べて規模が大きく、アーティストとしてのやなせたかし先生を取り上げている点に魅力がある。

【B委員】

○横山隆一記念まんが館では、3月から8月末まで、やなせたかし展覧会を開催する。

横山隆一とやなせたかしという切り口の展示会なのだが、高知でのやなせ先生の活躍として、まんが甲子園の審査員を長らく務めて永世名誉審査員長となっていることを紹介する。まんが甲子園でも、やなせ先生の取組を紹介し、予算が許せばアンパンマンのイベントも実施すれば良い。

#### 【J 委員】

○地域活性化には、全国にどう訴求するか、県内をどう盛り上げるかの2つの側面がある。まず、県内向けの取組として、各市町村とのコラボイベントは、甲子園をいきなり打ち出すのではなく、まんがに触れる機会を設けて、その引き込みの中で甲子園の存在を知ってもらいと良い。全国向けの施策としては、予選を通過できなかったが個人では才覚がある人のために個人戦を企画しても良い。

### 4 運営

#### 【G 委員】

○かるぽーと以外の会場は、予算の問題もあるだろうが、高知城は、きちんと運営できればおもしろい。決勝を天守閣でやったら話題性がある。

○現在、漫画家大会議が3月、甲子園が8月、11月がまんさい、年間を通じてイベントがあることは素晴らしいが、分散しているという見方もあるので、一括で大きなイベントを開催することについては議論したい。まんがフェスティバルの中にまんが甲子園があるという位置づけである。

#### 【F 委員】

○受入面がクリアできれば、一回、試験的に実施したら良い。

#### 【C 委員】

○夏休みでも教員は平日仕事。生徒は県体等と被らないようにスケジューリングする

必要がある。

【B委員】

○8月はよさこいもあるので、宿泊施設の確保等が難しい。

【G委員】

○他の時期はどうか。例えば5月のゴールデンウィーク。

【A委員】

○まんがイベントはいずれも伸び悩んでいるので、よさこいと繋げる等、別のものと一緒にしたほうが良い。

○運営に関しては、開会式、閉会式を大ホールで開催することに違和感がある。閉鎖された空間で賑やかさが無い。以前、競技会場で実施していたほうが良かった。

○交流会で複数の学校から講評を求められる。講評動画は高校生も視聴しているが、コメントでは言えないことや、自分がコメントしていない学校にも伝えたいことがある。交流会場に作品を掲示していただきたい。

○結果発表だけでも中央公園でライブで見られたら、臨場感を一般の人々に感じていただける。

(事務局)

開会式、閉会式の場所については、大ホールでの表彰の場面が感動的であるとの学校関係者の意見もあるので、いろいろな意見を踏まえて検討していく。交流会についても、高校生の交流と作品の講評を両立する方法を考える。

【G委員】

○予算的に現実的ではないと思うが、中央公園でライブビューイングを実施できたら

良い。競技はかるぽーと、オープニング（競技開始のゴング）は中央公園で、その後も声優や漫画家のトークイベント、グッズ販売等で中央公園に集客する。そして随時、かるぽーとの速報を中央公園のモニターに映す。最後、受賞した学生が中央公園に登場する。

#### 【D委員】

○最優秀賞の30万円は金額が低い。賞の数を減らしても良いので、そんなにもらえるのかと驚く金額を設定して学生の興味を引くべき。

### 5 財源

#### 【H委員】

○まるごと高知でスポンサーを募る。高知の文化に関心のある企業を巻き込む。

#### 【J委員】

○高知には名産がたくさんあるので、全国に知ってもらうために協賛する企業があるのではないかと思う。

#### 【G委員】

○事務局から、全国6,300校に実施要綱を郵送している。これに広告が載るということは非常に宣伝効果がある。高校生や親に直接届く。まんが甲子園のネットワークを使って宣伝することができる。まるごと高知というお話があったが、物産の広告を掲載し、まんが甲子園の会場で物産展をやっても良い。

#### 【I委員】

○企業は12月に次年度予算が固まるので、それ以降には修正が難しい。実施要綱を



含めて、できるだけ早く進めていただきたい。

【H委員】

○クラウドファンディングはいかがか。

(事務局)

クラウドファンディングは県の事業で活用している。

6 その他

○情報発信の強化、人材育成と地域活性化の3つが皆様の共通の課題意識だと感じた。  
具体的には、人材育成と地域活性化が融合していくことは難しいが、ポテンシャルをたくさん持っていると感じた。有機的に繋ぐことでそれぞれの効果を高めることが大切。

○国ではメディア芸術ナショナルセンター構想を進めている。まんがBASEを含め、全国の拠点によるネットワークを構築し、そのハブとなるセンターを構築していくことで、地域の課題を他の地域と共有し、地域の特色ある取組を発展的に継続していただくための交流の場を設けたい。

○人材育成は、文化庁がクリエイターの支援基金を新設した。海外を目指すまんが・アニメ・ゲーム・音楽・舞台等の人材育成である。全国から応募があり、まんがも多くの応募がある。漫画家と編集者のペアでの応募もある。支援期間は3年。地域から海外へ発信していく事業が始動したので、高知県からもまたご意見を寄せていただけたらと思う。

○センターの拠点整備、人材育成、海外発信、新しい取組を試行錯誤しているので、今後とも意見交換しながら進めていきたい。